

Agri Road

アグリロードながおか

長岡市担い手育成総合支援協議会（事務局／長岡市農林水産部 農水産政策課）

No. **33**
2020. 9. 30
発行

特集 農業情熱ランナー ～挑戦への道～ 新規就農



[information]

稲わら・おがらをを使って
元気な田んぼに！
ビニールハウス等の倒壊に注意！
狩猟免許を取って有害鳥獣の
捕獲に参加しませんか

[農政 VOICE]
新型コロナウイルス感染症

スマートアグリ技術の活用で水稻の品質向上を目指す

今年は、7月の日照不足や8月末のフェーン現象などがあったものの、昨年のような災害級の異常気象は発生せず、皆様におかれてもホッとしていらっしゃる方が多いのではないのでしょうか。

さて、近年、そのような気候変動の対応策の一つとして、ドローン等で撮影した画像を用いて、作物の生育状況を迅速かつ省力的に診断し、品質の向上を図るスマートアグリ技術（リモートセンシング）の導入が大規模経営体を中心に進んでいます。その一方、中小規模の経営体においては、その導入コストや技術、データの活用等がハードルとなり、まだまだ普及が進んでいないという課題もあります。

そこで、現在、長岡市では、JA越後ながおかと連携して、各営農センターにドローン等を導入し、各地域の営農指導に生かしてもらおうことで、農業者の負担を最小限に抑えた形での「スマートアグリ技術の社会実装」が可能か実証実験を行っています。今後、他地域への取組み拡大も視野に入れ、成果を検証していく予定です。

スマートな販路の確保を支援します！（長岡市EC活用支援事業）

新型コロナウイルス感染症の影響により、今まで以上に需要が高まっているオンラインショッピング等（EC）を新たに導入する農業者を支援します。

補助対象事業者	農業者（認定農業者、新規認定農業者等） または 農業者3戸以上で構成する団体
補助対象経費	ショッピングモール（楽天、Amazon、食ベチョクなど）への出店・出品に係る経費 自社webサイトへのショッピング機能の実装に係る経費
補助額	対象経費の3/4以内（上限額20万円）
担当	農水産政策課農村政策係



稲わら・おがらを使って元気な田んぼに！ そして安心・安全を届けよう！

近年、マイクロプラスチックにおける海洋汚染など様々な環境問題が出てきている中で、世界的に持続可能な環境保全への関心が高まり、レジ袋の有料化やプラスチックに代わる素材の開発・実用化など環境にやさしい取り組みが実施されています。

農業分野では、環境保全型農業や生物多様性保全を重視した農業の推進などが実施されており、長岡市でも農業や化学肥料を減らした特別栽培米の生産を推進するなど、環境保全に取り組んでいます。

稲わらやおがらは、貴重な有機質資源です。焼却ではなく、田んぼにすき込みするなど環境にも人にも優しい農業を実践しましょう。

※稲わら・おがらの焼却は、近隣の方への迷惑となる場合があります。



ビニールハウス等の倒壊に注意！

近年、記録的な異常気象により、ビニールハウス等の倒壊被害が増加しています。今後の大雪等に備え、農作業事故や農業施設の破損被害を防ぐため、以下のことを徹底してください。



- 最新の気象情報を十分に確認し、早めの対応を行う。
- 降雪前にビニールハウス、作業場、畜舎等の施設点検と補修を行う。
- 栽培を終えたビニールハウスは、ビニールを外す。
- ビニールハウスを格納庫として利用しない。
- 農業施設（ビニールハウスを含む）周辺は、除排雪を適切に行う。
- 落雪に注意し、降雪量が多いときは見回らない。

※上記のような適正な管理を行っていなかった場合は、災害復旧事業が実施されても補助の対象とならないことがありますので御注意ください。

狩猟免許を取って有害鳥獣の捕獲に参加しませんか

全国的な問題となっている有害鳥獣による被害。長岡市内でもイノシシやサルによる農作物の食い荒らし、農道や畦畔を掘り起こす被害が多発し、関心が高まっています。

これらの被害を防止するため、市では鳥獣被害対策専門のチームである「長岡市鳥獣被害対策実施隊」を組織し、カラスやイノシシ・サルなどの有害捕獲を実施しています。

長岡産農作物を守るため、狩猟免許を取得し有害鳥獣の捕獲に参加してみませんか？市では狩猟免許を取得される方を対象に経費の一部を助成しています。詳しくは農水産政策課（TEL39-2223）までお問い合わせください。



新型コロナウイルス感染症

長岡市農林水産部長 安達 敏幸



目に見えず得体の知れないウイルスへの恐怖、マスクや消毒液など対策防御品の不足の発生、社会活動の停止や制限による経済的不安など、この感染症はこれまでに経験のないストレスを私たちに与え続けてきました。

農林水産業においても、外出の自粛や訪日外国人の減少などの余波で、業務用米のだぶつきや牛肉、魚の取引量の減少による価格低下などが発生しました。今後もどのような影響が生じるのか心配は尽きません。

また、私たちの日常においても、マスクの着用や人と人の接触をできるだけ抑制するなど「新たな生活様式」が定着しつつあります。

皆さんも、いままで田植えや稲刈りなどの農繁期には、遠

隔地に住む家族や親せきなどに手伝いを頼んでいたものが、移動自粛の流れのなかで、見合わざざるを得なかった方も多かったのではないのでしょうか。

一方で、農業はコロナ禍において強みのある仕事だといわれています。基本的に屋外であり、田畑は広く3密にはならず、作業に没頭している間は面と向かって話すことも少ない。そして何よりも食料の生産は人が生きていくうえで必ずやらなければならない、不要不急にはなり得ない活動なのです。

感染症の発生後、長岡市においても新規就農希望者が増加しています。農業を始めることは決して簡単なことではありませんが、新型コロナウイルス感染症により世界に大きな変化が生じている今、若い就農者が新たな力となることを期待しています。



新規就農

昨今、農業就業人口が減り、高齢化が進んでいます。このようななか、長岡市内でゼロから新たに農業に取り組むお二人に、就農のきっかけや今後の目標を伺い、農業を志す方へのメッセージをいただきました。



Interview 01



令和2年から独立して就農された長島恒介さんにお話を伺いました。

Q 就農のきっかけを教えてください。

A 就農する前は東京の飲食店で働いていましたが、家族との話し合いにより帰郷することになり、それをきっかけに農業を始めました。元々実家が農業をしていて、小さい頃からよく手伝いをしていました。農作業は好きだったので、高校時代も休みの日は、午前は部活動、午後は手伝いといった日々を過ごしていました。

Q 独立をしようと思ったのはなぜですか。

A 何事にも挑戦することが好きで、雇われている身では限界があるため、独立を目指しました。自分で野菜を育てて、それが売れると自分の存在を知ってもらいたい、認めてもらえ、それがやりがいにもなります。

Q 農業をするうえで大事にしていることはありますか。

A 他の農業者の話を聞くことです。自分とは違う作物に挑戦している方の話は、自分の代わりに挑戦をしていただいているようなことがタイミング的にチャンスだと思い、農業を始めました。

Q 実家が稲作農家という点ですが、レタスを栽培しようと思ったのはなぜですか。

A 稲作農家は機械の値段が高く、経費を賄うためには広い面積で栽培しなければいけないので、その目的が立っていませんでした。そのため、地元中之島でブランド化され、栽培技術、価値ともに確立されている大ロレタスを栽培したいと思いました。レタスであれば稲作では農閑期となる冬の間も収穫ができます。今後、稲作と両立する事をふまえると忙しい時期が重なってしまう事もありますが、通年で農作業ができる点に魅力を感じました。また、蓮の花がきれいで景観として楽しめたり、葉

Interview 02



平成31年4月から就農しており、令和3年3月から独立を予定している中嶋果菜さんにお話を伺いました。

Q 農業についての勉強はされていましたが。

A 高校は農業高校に通っていて、食品科学科で加工の勉強していました。そこで、加工の元である原材料の生産の勉強をしたいと思い、農業大学の稲作経営科に進みました。

Q 就農のきっかけを教えてください。

A 実家が稲作農家をしていて、将来的に継ぐ気持ちがありました。そんな時に、農業大学時代の同級生が農業冊子に載っていて、その活躍を見たり、同級生と話をする中で「私も農業をしたい」と刺激を受け、二十代の今



とです。何人分もの知識を得られます。良かった点、悪かった点を踏まえて、自分が新たに挑戦できます。ですので、農業者同士の交流の場をもっと増やしたいですね。

Q ご家族は就農に対してどのような反応でしたか。

A 親は賛成でしたね。むしろ農業をしろに戻ってほしいと感じてました。そもそも親が農業をしていて農業が好きだったので勧められたのだと思います。

Q 嬉しかったエピソードはありますか。

A 出荷した野菜をお客さまに買っていただいたり、名前を憶えてもらったりして、その野菜をお料理のお皿に使えたりと、食べることで外にも楽しみがある作物であることに惹かれました。

Q 独立しようと思ったのはなぜですか。

A 単純に自分で栽培してみたいと思うようになったことと、ここ数年で離農する方がどんどん増えているのを身近で感じていたので、自分が独立していれば作り手のいなくなった圃場を少しでも引き受けられることができるかもしれないという考えもありました。

Q 自分のこだわりはありますか。

A レタスを観察することが好きで、「芽が出てきた、葉が出てきた、色はどんな色で、どのよう成長している」など育てる過程を把握できるものにしています。気候等によりレタスの状態が変わるので、臨機応変に対応できるようにデータを集めています。

Q どのようになりたいかがいますか。

A 一つの作業に意味があつて、レタスの収穫を迎えた時には、「これまでの努力や苦労が報われたとやりがいを感ずる」。

Q 嬉しかったエピソードはありますか。

A 作業をしているところを地域の方がよく見に来ていて、「がんばっているね」と声をかけてもらえたり、回りまわって間接的に評価をいただいたりしたときは、地域にだんだん溶け込んでいるのかなと思ひ、嬉しかったです。見られていると思うと、頑張るという気持ちになります。



を美味しいと言われるのは嬉しかったですね。また、がんばって作ることで意欲が湧きました。

Q 失敗や苦労したことはありますか。

A 失敗はありませんが、今は失敗を重ねて、自分が自信をもつてやっていると道を作る時期だと考えています。苦労は正直ないですね。農業が好きなので、「いい」と思うことがないんです。

Q 今後の目標を教えてください。

A ネギの栽培を人生においての主流にしたいと思っています。ハウスでも栽培をして、冬も出荷できるようになっていきたいです。野菜が好きなので、いろいろな野菜を栽培したい欲もありますが、今は、ネギ町歩を目標にして、5年先ネギで軸ができた時、他の野菜に挑戦していきたいです。

Q 農業を志す方へメッセージをお願いします。

A 農業を肌で感じてみてほしいです。そして、農業を好きになってほしいです。農業を好きという原動力があれば作業効率も上がり、成功への近道になると思います。自分は他の農業者の話を聞くことを大事にしていると言いましたが、話を聞いて刺激をもらったり、勝手にライバル視をして、「この人には負けない」という気持ちで農業をしています。

Q 今後の目標を教えてください。

A 独立する際の栽培面積は、85aを予定しています。将来的には2haまで規模拡大を目指しています。大ロレタスというブランドが何十年と続いています。栽培する人が少なくなっています。自分たちが栽培している姿を見て、「私もやってみよう」と思われるきっかけになれることが理想です。

Q 農業を志す方へメッセージをお願いします。

A 食べ物を作る大切な産業です。しかし、天候や病害虫、栽培条件など自然相手のお仕事なので上手いかわからないところがあると思います。理想は大事ですが、現実とも向き合えるように、主観だけでなく客観的に発想するなどして色々な見方、考え方ができると良いと思います。

